

宮川流域振興調整会議 事項書

日時：令和7年11月26日(水)

9:30～9:50

場所：プレゼンテーションルーム

【議題】

1 宮川の流量回復の取組

(1) 令和7年度の流量回復放流の結果と検証 資料1

(P1 ～ P5)

(2) 令和7年度第1回宮川のより良い流況に向けた流量回復等検討会議

. 資料2、3

(P6 ～ P8)

2 今後の取組方針

. 資料4

(P9)

宮川流域振興調整会議
出席者名簿

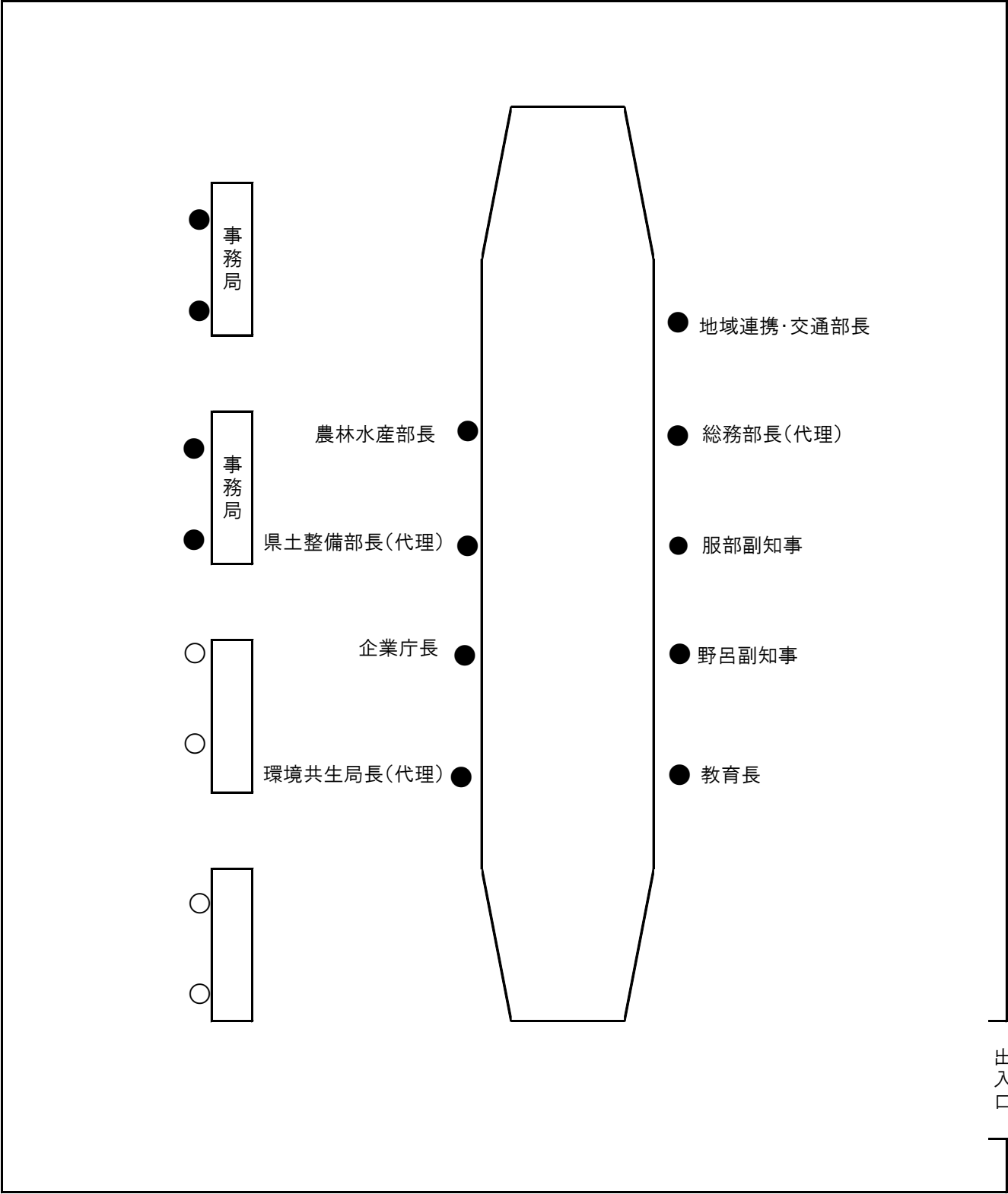
令和7年11月26日（水）
9：30～9：50
県庁3階
プレゼンテーションルーム

（敬称は略させていただきました）

	氏名	
副 知 事	野呂 幸利	座長
副 知 事	服部 浩	副座長
総務部副部長	山本 毅	委員代理
地域連携・交通部長	生川 哲也	委員
農林水産部長	枅屋 典子	委員
県土整備部次長	野呂 守	委員代理
企業庁長	河北 智之	委員
環境共生局次長	西田 恭子	
教育長	福永 和伸	

令和7年度宮川流域振興調整会議(11月26日)座席表

プレゼンテーションルーム



1 宮川の流量回復の取組

(1) 令和7年度の流量回復放流の結果と検証

① 流量回復放流の目的

三重県が策定した宮川流域ルネッサンスビジョン（平成10年2月）に掲げられた基本理念「豊かな清らかな川の流れを甦らせる健全な水循環の構築」を目指し、平成13年3月に流量回復方策の目標として定めた「粟生頭首工直下 $3.0 \text{ m}^3/\text{s}$ の流量確保」を達成することを目的として、宮川ダムからの放流を実施する。（宮川における流量回復放流実施要領 第2条より）

② 令和7年度の実施結果

取組期間 令和7年4月1日（火）～ 9月30日（火）

取組結果

○流量回復放流	7月4日～7月8日	（5日間）	46.1 万 m^3
	8月4日～8月5日	（2日間）	8.4 万 m^3
	9月2日～9月4日	（3日間）	28.8 万 m^3
	合計	（10日間）	83.3 万 m^3 / 1,000 万 m^3

参考：かんがい放流量	4月11日～4月14日	（4日間）	103.9 万 m^3
	4月18日～5月12日	（25日間）	280.8 万 m^3
	7月8日～7月15日	（8日間）	129.6 万 m^3
	8月5日～8月29日	（25日間）	203.7 万 m^3
	合計	（62日間）	718.0 万 m^3 / 750 万 m^3

○粟生頭首工直下で $3.0 \text{ m}^3/\text{s}$ の流量を下回った日数

7月8日～7月15日	8日間
8月5日～9月2日	29日間
合計	37日間

（7/8～7/15・8/5～8/29 はかんがい放流実施中）

③ 流量回復放流の検証

流量回復放流とかんがい放流を合わせて行う同時放流の取組は、単独での放流に比べ、宮川ダム貯水量の減少が早まることや、放流水の水質管理などのリスクが高まることが考えられることから、運用にあたっては関係者間の合意のうえで慎重に進める必要があります。

令和7年度は、6月中旬以降、降水量が少なく宮川本川の流量が少なくなったため、7月4日から流量回復放流を開始しました。

7月8日からかんがい放流を実施するにあたり、同時放流実施に向けた検討を行いました。が、今後の降雨が少ない見込みであったことから、宮川ダム貯水量の減少や農業用水の使用状況を考慮し、同時放流は実施せず、かんがい放流のみを実施することとなりました。

その結果、7月中旬に降雨があるまでの8日間、栗生頭首工直下で $3.0 \text{ m}^3/\text{s}$ を下回りました。

その後、平年と比べ気温がかなり高くまとまった降雨がなかったことから、同時放流を見送った判断は適正であったと考えています。

また、8月には、記録的な猛暑のうえまとまった降雨がなく、8月4日から流量回復放流を開始しました。

8月5日からかんがい放流を実施するにあたり、同時放流実施に向けた検討を行いました。が、宮川ダムの貯留水位が同時放流実施運用で定める開始条件の水位を下回っていたことから、同時放流は実施せず、かんがい放流のみを実施することとなりました。

その後も、記録的な高温とまとまった降雨がない状況が続きましたが、農業用水の使用が減少したことから、8月29日にかんがい放流を停止しました。

かんがい放流停止時において、宮川本川の流量が少なかったため、流量回復放流に向けた手続きを進め、9月2日に放流を開始し、栗生頭首工直下 $3.0 \text{ m}^3/\text{s}$ を回復しました。

その結果、9月2日までの29日間、栗生頭首工直下で $3.0 \text{ m}^3/\text{s}$ を下回りました。

8月は記録的な高温が続き、まとまった降雨がない状況が続いたため、実施運用に基づき同時放流を見送った判断は適正であったと考えています。

また、今年度は、農業用水の使用量減少に伴いかんがい放流を停止し、続けて流量回復放流を行った初めてのケースとなり、放流開始にかかる関係者との協議に時間を要したことから、今後は同様の場合を想定した運用について検討を進めていく必要があると考えています。

流量回復放流については、関係者から一層の運用手順の迅速化を求める意見もいただいていることから、引き続き、関係者と協力して運用の改善に努め、栗生頭首工直下の安定的な流量回復に取り組めます。

同時放流の取組については、今後も流域へのリスクが十分に確認されるまで、拙速に本格運用に入ることなく、試行による実績を積み重ね、慎重に検証を継続することとします。

＜参考＞主な意見

令和 7 年度の流量回復放流の取組後にいただいた関係者からの主な意見とその対応については次のとおりです。

a かんがい放流と流量回復放流の同時放流について

関係者からの 意見

かんがい放流と流量回復放流の同時放流は、単独での放流に比べ、宮川ダム貯留水量の減少が早まることや、放流水の水質管理など流域へのリスクが高くなるということを十分に理解したうえで、拙速に本格運用に入るのではなく慎重に試行を続けてもらいたい。

〔対応〕

令和 7 年度は、7 月及び 8 月に同時放流を検討する機会がありましたが、7 月は宮川ダムの水位低下の懸念から、8 月は宮川ダムの貯留水位が同時放流実施運用で定めた開始条件水位を下回っていたことから、流量回復放流は行わず、かんがい放流のみを実施することとなりました。

同時放流の取組については、流域へのリスクが十分に確認されるまで、関係者協力のもと河川状況に応じて試行運用を実施していきます。

引き続き放流量や手順、判断について実績を積み重ね、慎重に検証を行い流量回復放流に取り組んでいきます。

b 流量回復放流の運用の実施について

関係者からの 意見

かんがい放流停止直後に流量回復放流の協議があったが、不連続放流となり放流前の水質調査や関係機関への通知、河川巡視等の負担が生じることとなった。かんがい放流から流量回復放流への切り替えであれば、連続切替放流となり、放流対応が容易となる。かんがい放流と流量回復放流の放流計画の事前共有を行い連続切替放流となるよう調整していただきたい。

〔対応〕

令和 7 年度は、かんがい放流停止に伴い流量回復放流を開始する初めてのケースとなり、関係機関との協議に時間を要した結果、不連続放流となりました。

かんがい放流から流量回復放流に切り替える場合には、それぞれの放流計画を事前に共有し、より適正な判断が行えるよう、水資源・地域プロジェクト課が主体となって放流開始判断の迅速化を図ります。

また、流量回復放流実施に伴う関係者への負担が増加しないよう運用を行い、実績を積み重ね、慎重に検証を行い流量回復放流に取り組んでいきます。

関係者からの
意見

流量回復放流開始の判断について、放流開始手続きに時間を要するのであれば、河川自流が不足することを事前に予測し、放流開始判断を迅速に行っていただきたい。

〔対応〕

流量回復放流開始時期については、今後の河川自流の減少を予測し、農業用水取水の需要を把握したうえで流量回復放流開始を適正に判断できるよう、水資源・地域プロジェクト課が主体となって流量回復放流に取り組んでいきます。

c 流量回復放流の運用ルールについて

関係者からの
意見

引き続き、手順の迅速化や判断について改善していただき、適正な流量回復放流を行っていただきたい。

〔対応〕

関係者との意見交換を踏まえ、手順の迅速化や判断の改善を図り、リスク対応に繋げていきたいと考えています。実績を積み重ね、慎重に検証を行い流量回復放流に取り組んでいきます。

d 放流量の河道ロス率について

関係者からの
意見

放流量の河道ロス率を5%としているが、5%が妥当であるかについて放流した実績から検証してほしい。

〔対応〕

これまでも検証に必要となる過年度の観測流量データのとりまとめを行っているところです。引き続きデータを蓄積して河道ロス率の検証に取り組んでいきます。

【参考】流量回復放流の運用実績

実施期間		流量回復放流量
平成 26 年 8 月 1 日～6 日	6 日間	66.4 万 m ³
平成 28 年 7 月 29 日～8 月 5 日	8 日間	93.3 万 m ³
令和 2 年 6 月 1 日～6 月 19 日	19 日間	293.6 万 m ³
令和 2 年 8 月 11 日～8 月 28 日	18 日間	228.0 万 m ³
令和 4 年 7 月 29 日～8 月 8 日 同時放流(流量回復放流) (令和 4 年 7 月 29 日～8 月 5 日 同時放流(かんがい放流))	11 日間 (8 日間)	202.6 万 m ³ (59.9 万 m ³)
令和 5 年 7 月 13 日～7 月 18 日	6 日間	87.9 万 m ³
令和 7 年 7 月 4 日～7 月 8 日	5 日間	46.1 万 m ³
令和 7 年 8 月 4 日～8 月 5 日	2 日間	8.4 万 m ³
令和 7 年 9 月 2 日～9 月 4 日	3 日間	28.8 万 m ³
計 (12 年間)		78 日間 1055.1 万 m ³

【参考】粟生頭首工直下 3.0 m³/s の流量を下回った日数

下回った期間		備考
平成 26 年 6 月 25 日～27 日	3 日間	－
平成 27 年 6 月 1 日～5 日	5 日間	かんがい放流実施中
平成 28 年 8 月 5 日～23 日	19 日間	かんがい放流実施中
平成 29 年 6 月 1 日～21 日	21 日間	かんがい放流実施中
平成 29 年 7 月 18 日～27 日	10 日間	かんがい放流実施中
平成 30 年 7 月 25 日～27 日	3 日間	かんがい放流実施中
令和 5 年 7 月 18 日～8 月 7 日	21 日間	かんがい放流実施中
令和 6 年 7 月 31 日～8 月 24 日	25 日間	かんがい放流実施中
令和 7 年 7 月 8 日～15 日	8 日間	かんがい放流実施中
令和 7 年 8 月 5 日～8 月 29 日	29 日間	かんがい放流実施中
令和 7 年 8 月 29 日～9 月 2 日		－
計 (12 年間)		144 日間

(2) 令和7年度第1回宮川のより良い流況に向けた流量回復等検討会議

- ・ 日 時 令和7年8月26日(火) 13:10～13:50
- ・ 場 所 三重県庁 地域連携・交通部 会議室
- ・ 出席者 リーダー 野呂副知事
主任委員 水谷参事兼水資源・地域プロジェクト課長
委員ほか15名

(各部局の令和6年度の調査・検討結果の報告、令和7年度の実施)

○『環境生活部：流量回復放流前後の水質状況の調査を実施』

令和6年度の結果：水質は概ね環境基準を満たしていることを確認した。

令和7年度の実施：7月及び8月の流量回復放流に合わせて水質調査を実施した。
今後も流量回復放流前後の水質調査を実施する。

○『農林水産部：アユ等の生息環境としての現況把握を実施』

令和6年度の結果：アユの餌料環境は中栄養レベル以上であり良好であることを確認した。

水温については概ねアユの生息可能水温の範囲内であることを確認した。

令和7年度の実施：付着藻類と水温の調査を実施する。

○『**県土整備部：宮川ダム直下から三瀬谷ダム間の流量観測を継続、土砂還元事業についてモニタリング調査を実施**』

令和 6 年度の結果：桧原地点（桧原谷川合流手前）と、その下流の岩井地点で流量観測を実施した。

令和 2 年度に実施した置き土流出により、河川環境の改善が確認されたため、2 回目の置き土を実施した。

令和 7 年度の実施：河川管理者の観点から流量観測を実施する。

2 回目の置き土に対するモニタリング調査を実施する。

○『**教育委員会事務局・農林水産部：ネコギギ等の希少種について情報収集、必要に応じた生物調査を実施**』

令和 6 年度の結果：ネコギギ等の希少種の生息状況の取りまとめを行った。

令和 7 年度の実施：生息状況に関するデータ蓄積を行う。

○『**地域連携・交通部：関係機関・部署との意見交換を実施、諸課題の整理**』

令和 6 年度の結果：利水者など関係者に対し、各部局の取組状況や現況の諸課題について説明を行い、より良い状況に向けて意見交換を実施した。
関係者から要望がある河川環境に関する調査に着手した。

令和 7 年度の実施：河川環境に関する調査を継続して実施する。

地元要望等を踏まえたうえで課題を整理し、利水者など関係者と意見交換を継続する。

令和 7 年度（第 1 回）宮川のより良い流況に向けた流量回復等検討会議 報告書

令和 7 年度

環境生活部

令和 6 年度		令和 7 年度		備考
流量回復放流前後の水質状況の調査を実施		流量回復放流前後の水質状況の調査を実施		
①-1 取組内容（調査・検討）	①-2 調査・検討結果	②-1 取組内容（調査・検討）	②-2 8 月末時点進捗確認、年度末見込み	
・ 平常時の水質データを蓄積した。 ・ 流量回復放流実施時には水質調査を行う。	・ 令和 6 年度の平常時の水質は、環境基準（河川）を概ね満たしていた。 ・ 流量回復放流未実施のため、水質調査は行わなかった。	・ 引き続き平常時の水質データを蓄積する。 ・ 流量回復放流実施時には水質調査を実施する。	・ 7 月及び 8 月の流量回復放流にあわせて、水質調査を実施した。今後も流量回復放流があれば水質調査を実施する。 ・ 継続して、平常時の水質データを蓄積する。	大気・水環境課

農林水産部

令和 6 年度		令和 7 年度		備考
アユ等の生息環境としての現況把握を実施		アユ等の生息環境としての現況把握を実施		
①-1 取組内容（調査・検討）	①-2 調査・検討結果	②-1 取組内容（調査・検討）	②-2 8 月末時点進捗確認、年度末見込み	
・ 宮川上流漁協管内の 2 地点でアユの生息環境（付着藻類、水温等）の状況を把握した。	・ 2 地点とも餌料環境（付着藻類量）は中栄養レベル（3～60mg/m ² ）で、水温は生息可能（13～30℃）の範囲内であった。	・ 引き続きアユの生息環境（付着藻類、水温等）の状況把握を行い、データを蓄積する。	・ 引き続き付着藻類と水温の調査を実施し、アユの生息環境の現状把握及び流量の変化等による影響評価のためのデータを収集、蓄積していく。	水産研究所

県土整備部

令和 6 年度		令和 7 年度		備考
宮川ダム直下から三瀬谷ダム間の流量観測を継続		宮川ダム直下から三瀬谷ダム間の流量観測を継続		
土砂還元事業について次年度以降の取り組みについて検討		土砂還元事業についてモニタリング調査を実施		
①-1 取組内容（調査・検討）	①-2 調査・検討結果	②-1 取組内容（調査・検討）	②-2 8 月末時点進捗確認、年度末見込み	
・ 流量観測（2 地点）を実施し、データを蓄積した。	・ 毎月 1 回の流量観測を実施し、令和 6 年度の流量を確認した。	・ 引き続き流量観測を継続して実施する。	・ 引き続き流量観測（2 地点）を実施する。	河川課
・ 令和 3 年 1 月実施の土砂還元事業として、置き土した土砂（4,000m ³ ）流出による河川環境改善の効果を検証するとともに、2 回目以降の置き土実施について検討した。	・ 置き土流出による付着藻類の剥離が増加し、河川環境の改善が確認できたことから、2 回目の置き土（4,000m ³ ）を実施した。	・ 2 回目の置き土流出後の河川環境改善効果を確認するため、モニタリング調査を実施する。	・ 2 回目の置き土に対するモニタリング調査を実施する。	

教育委員会・農林水産部

令和 6 年度		令和 7 年度		備考
ネコギギ等の希少種について情報収集、必要に応じた生物調査を実施		ネコギギ等の希少種について情報収集、必要に応じた生物調査を実施		
①-1 取組内容（調査・検討）	①-2 調査・検討結果	②-1 取組内容（調査・検討）	②-2 8 月末時点進捗確認、年度末見込み	
・ ネコギギ生息状況に関するデータの蓄積を行った。	・ 令和 6 年度のネコギギ生息状況について取りまとめた。	・ 引き続きネコギギ生息状況に関するデータの蓄積を行う。	・ 引き続きネコギギ生息状況に関するデータの蓄積を行う。	社会教育・文化財保護課
・ 生物多様性アドバイザー等の専門家による調査を必要性に応じて実施する。	・ 希少種の生息状況について情報を共有した。	・ 生物多様性アドバイザー等の専門家による調査を必要性に応じて実施する。	・ 今後、生息状況について有識者と共有する。	みどり共生推進課

地域連携・交通部

令和 6 年度		令和 7 年度		備考
河川環境の調査及び意見交換の継続		河川環境の調査及び意見交換の継続		
①-1 取組内容（調査・検討）	①-2 調査・検討結果	②-1 取組内容（調査・検討）	②-2 8 月末時点進捗確認、年度末見込み	
・ 関係者から要望がある河川環境について調査を行うとともに、継続して利水者や流域市町など関係者との意見交換を行った。	・ 河川環境に関する調査に着手した。 ・ 利水者や流域市町など関係者との意見交換を実施した。	・ 引き続き河川環境に関する調査を実施する。 ・ 利水者や流域市町など関係者との意見交換を継続して実施する。	・ 河川環境に関する調査を継続して実施している。 ・ 利水者や流域市町など関係者との意見交換を継続して実施している。	水資源・地域プロジェクト課

2 今後の取組方針

- ・流量回復放流の取組については、栗生頭首工直下 $3.0 \text{ m}^3/\text{s}$ の安定的な流量確保に向けて、引き続き関係者と協力して運用の改善に努めていきます。
- ・宮川のより良い流況の実現に向けて、利水者や流域市町などすべての関係者との意見交換を継続するとともに、関係者との取組をさらに進めます。